

かわさき区の宝物シート

宝物No.
14-3

ほうえいじ 法榮寺

多摩川に浮かぶ
中洲「ねずみ島」



エリア	大師地区	シーズン	通年
	殿町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区殿町2-1-19
問い合わせ	法榮寺
TEL	044-266-0096
FAX	044-266-0096
E-mail	
URL	
交通	川崎駅よりバス「殿町二丁目」下車徒歩4分



基礎情報

- 正式名称は青龍山稲光院法榮寺。天台宗で水神社の別当である。本尊は秘仏といわれる薬師如来坐像。
- 仏教の六道の教えを六躰の地藏尊によってあらわした享保元年(1716)造立の六地藏の他、地藏菩薩や万霊塔などの石造物が祀られる。また、大師河原村校(現殿町小学校)の初めての教員となった明治の教育家・青山向岡(こうきょう)の墓碑がある。旧友らによって明治13年(1880)に建立されたものである。

由来・エピソード

- かつて田町河岸(現在の田町3丁目付近)には海苔漁師達の守護神(海苔弁天)として田町殿島神社が祀られ、別当は法榮寺であった。明治期、旧暦正月11日の例祭日になると、朝、お年寄りが法榮寺に御神体の弁天様を迎えに行き、リヤカーに乗せて町内を一巡後、殿島神社に安置してお祭りを行った。田町河岸の水面には笹竹を立て注連縄を張って御神酒が捧げられ、夕刻まで飲食をして楽しんだという。祭りが終わると再び法榮寺まで御神体をお送りして翌年の正月まで預けた。忙しい冬場の漁期、仕事を休んでの楽しいひと時であった。田町殿島神社は、昭和48年(1973)4月に川崎漁業協同組合が解散したことから、神社護持の後継者が途絶えるのを恐れた有志によって昭和61年(1986)若宮八幡宮内に遷座された。
- 法榮寺裏、多摩川の堤防に立つとやや下流に中洲状の「ねずみ島」と呼ばれる小さな島が見える。大正7年(1918)に着手された多摩川河口の改修工事以前は、殿町の土地はこの島のあたりまでひろがっていた。法榮寺の本堂は現在の堤防あたりにあり、墓地も水神社の裏手から多摩川に向かって真っ直ぐに伸びていた。内務省の多摩川治水河川改修計画は、殿町地域20万坪のうち10万坪を政府が買い上げて河川幅を拡げるといふもので、蛇行する流路を直流させ、付近の住家移転、梨・桃畑の果樹の移植を行い、大出水時の流水の障害物を除き被害を防ぐ大計画であった。
- 大洪水に苦しみ念願の堤防改修が実現するものの、先祖伝来の土地の半分を失う殿町の住民たちは、時の内務大臣で大師出身の鈴木喜三郎に殿町側だけでなく羽田側への拡幅を陳情したが、多摩川河川改修は日本国家百年の大計に基くものであると喜三郎は陳情を受け入れなかった。ただ、当初計画では現在の水神社・法榮寺前の道路まで開削される計画だったものが、現在の堤防の位置までと変更されたという。そして梨の成木が1本1円、土地も1坪1円で買い上げられた。最後まで買い上げに応じなかった殿町の地主の梨畑を残り周囲が2~3mの深さに掘られた。海潮が浸透し農作物が栽培出来なくなると放置され、やがて一面にアシが茂り、野ネズミのすみかとなったのが「ねずみ島」の由縁である。

補足・その他

関連シート

- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-6)田町殿島神社
- (14-2)水神社